

教 育 研 究 業 績 書

氏名 上 村 健 二

学 位 | 文学修士 <昭和63年3月 京都大学大学院>

研 究 分 野 | 研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド

西洋古典文学 | ローマ、ウェルギリウス、アエネイス、翻訳

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 ①英語の能力別クラス編成、学部統一テスト	1998年9月	甲子園大学人間文化学部において、英語のクラスを学科別から能力別（プレースメントテストによる）に再編成し、さらに1・2年次共通の学部統一試験を実施。能力別クラスについては、現在の心理学部と栄養学部フードデザイン学科でも、若干の修正を加えて実施している。
2 作成した教科書，教材 ①『はじめて学ぶラテン文学史』（共著） ②Campus Career File（共著）	2008年10月 2017年3月	古代ローマ文学史の入門書。章立てが時代別でなくジャンル別であること、および主要作品の引用（原文＋訳）があることを特徴とする。第2章「喜劇」を担当し、後世への影響を扱ったコラムを付加。教科書としての使用も想定されている。 「著書」欄に再掲 初年度教育である「キャリアスタートアップ」のテキスト。毎年改定している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

4 その他 ①学校法人北白川学園評議員	2006年4月～現在に至る	京都市左京区にある北白川学園（主に北白川幼稚園）の学校運営・教育活動等に参画している。		
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項				
事項	年月日	概 要		
1 資格, 免許				
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他 ①甲子園大学公開講座「百合若大臣とオデュッセイアの類似性」	2019年3月	(毎年テーマを変えて担当)		
研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 「再掲」『はじめて学ぶラテン文学史』	共著	2008年10月	ミネルヴァ書房	古代ローマ文学史の入門書。章立てが時代別でなくジャンル別であること、および主要作品の引用（原文＋訳）があることを特徴とする。第2章「喜劇」を担当し、後世への影響を扱ったコラムを付加。
(学術論文) 1 ウェルギリウス『アエネイス』-maius opusの解釈をめぐって	単著	1989年9月	西洋古典論集 6、pp. 53-75	英雄叙事詩『アエネイス』の後半が「より大いなる仕事」と呼ばれている理由を論じたもの。即ち、後半では「イタリア人の

て-				偉大さ」という要素が加わることにより、より重要なテーマを扱うことになる。
2 『アエネイス』におけるニススとエウリュアルス - dolus an uirtus をめぐって-	単著	1990 年 12 月	西洋古典論集 8、 pp. 43-54	『アエネイス』第 9 巻のエピソードに「策略か武勇か」というテーマがあることを指摘したもの。即ち、誉れは策略でなく武勇により求めるべきだという詩人の思想が具現されている。
3 パラダイグマとしてのヘルクレスとオレステス - Aeneis 第 6・8 巻と Odysseia 第 1 - 4・11 巻の対応 -	単著	1992 年 3 月	西洋古典学研究 40、pp. 78-87	『アエネイス』におけるヘルクレスが『オデュッセイア』におけるオレステスと対応していることを指摘し、第 8 巻のカクスのエピソードの解釈に援用したもの。即ち、主人公アエネアスにとってヘルクレスは（策略でなく）武勇による復讐者としての範例である。
4 プラウトゥス Trinumus における道徳的主題について - 喜劇的効果を上げる fide と amicitia -	単著	1995 年 3 月	西洋古典論集 12、 pp. 15-28	プラウトゥスの喜劇『三文銭』では伝統的美徳（特に信義と友情）が盛んに賛美されるが、実はこれらが喜劇的効果を上げるためにも利用されていることを指摘したもの。
5 テレンティウス『義母』における「知るべきでない人々」	単著	1999 年 3 月	甲子園大学紀要 人間文化学部編 2 (c)、pp. 17-29	テレンティウスの喜劇『義母』では、一部の登場人物が事の真相を知らぬままに終わり、彼らが「知るべきでない人々」と呼ばれている理由を論じたもの。

6 トウルヌスと dolus — 『アエネーイス』第11・12巻—	単著	2001年3月	甲子園大学紀要 人間文化学部編 4(c)、pp. 23-32	『アエネーイス』後半におけるイタリア人の英雄トウルヌスと「策略か武勇か」のモチーフとの関わりを論じたもの。即ち、トウルヌスには、本人の言明とは裏腹に、策略を利用する面がある。
7 『アエネーイス』第7巻における「内乱」の勃発	単著	2008年3月	西洋古典論集 21、pp. 37-52	ウェルギリウスの叙事詩『アエネーイス』後半の戦いを引き起こす女神アラクテの役割を新たな観点から論じたもの。
8 ローマ喜劇における'sed'の訳語について	単著	2011年3月	甲子園大学紀要 第38号(2011)、pp. 31-35	ラテン語の接続詞'sed'は英語の'but'と同様に「それより」などと訳せる場合があることを指摘し、ローマ喜劇の幾つかの場面でまさにそう翻訳すべきであることを示したもの。
9 学生の自主的な学びをサポートするひとつの企画の試み—「甲子園大学ノート大賞」—	共著	2013年3月	甲子園大学紀要 第40号(2013)、pp. 23-31	学生の自主的な学びを支援する企画である「甲子園大学ノート大賞」の誕生と現状を紹介し、今後の課題について考察したもの。
10 学生の主体的な学びをサポートする「ステップアップ講座」	共著	2014年3月	甲子園大学紀要 第41号(2014)、pp. 29-40	学生の主体的な学びを支援する「ステップアップ講座」の誕生から現状までを紹介し、今後の課題について考察したもの。
11 大学生と大学教職員が考える「よいノート」の要件—「甲子園大	共著	2015年3月	徳島大学総合教育センター「大学教育研究ジャーナル」第12号、	大学生や大学教職員が「よいノート」について記したコメントを分析し、それぞれの立場によるノートに対する考え方の違

学ノート大賞」でのコメントを基に—			pp.62-70	い的一端を示したもの。
12 学生支援としての「ステップアップ講座」の効果の検証—受講者アンケートの自由記述の分析から—	共著	2015年3月	甲子園大学紀要第42号(2015)、pp. 37-45	甲子園大学において学習支援事業として行われてきた「ステップアップ講座」に対する受講者アンケートの分析を通じて、学生がその特徴をどうとらえているかを具体的に示し、学習支援としての効果を検証したものの。
13 ポローニアスの訓戒の材源—シェイクスピア『ハムレット』とプラウトゥス『三文銭』—	単著	2017年3月	甲子園大学紀要第44号(2017)、pp. 17-21	『ハムレット』第1幕3場におけるポローニアスの訓戒、特に「友人と金の貸し借りをしてはならない」という金言がローマ喜劇『三文全』の2つの箇所を組み合わせる材源としていることを明らかにしたものの。
(その他)【翻訳】 1 ネポス『英雄伝』	共著	1995年3月	国文社	ギリシア・ローマの著名人の伝記集。本邦初訳。主に前半を担当 (pp. 9-78, 182-184, 205-218)。
2 キケロー『クルエンティウス弁護』	単著	2001年3月	岩波書店	毒殺事件を扱ったキケローの法廷弁論。刑事訴訟としては代表的なものの一つ。本邦初訳。『キケロー選集1』所収 (pp. 89-209, 403-409)。
3 キケロー『デーイオタルス弁護』	単著	2001年3月	岩波書店	キケローがカエサルの面前で行った弁論の一つ。本邦初訳。『キケロー選集1』所収 (pp. 365-391, 437-441)

4 プラウトウス『三文銭』	単著	2002年4月	京都大学学術出版会	プラウトウスの喜劇の一つ。伝統的美徳が賛美されるとともに、道徳論のパロディー的な面もある。『ローマ喜劇集4』所収（pp. 391-493、625-631）
5 テレンティウス『義母』	単著	2002年8月	京都大学学術出版会	テレンティウスの喜劇の一つ。笑劇的な面の少ないまじめな作品で、作者の意欲的な試みが含まれる。『ローマ喜劇集5』所収（pp. 477-561、711-717）
6 クルティウス・ルフス『アレクサンドロス大王伝』	共著	2003年9月	京都大学学術出版会	ラテン語で書かれたアレクサンドロス大王の伝記。本邦初訳。後半（pp. 244-469）を担当。